

法人経営の改善に関する事項

【提案 1】

1. 法人経営の改善事項等 (提案)

改善点 (テーマ)	
学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への展開に伴う対応について	
問題点 (改善理由)	問題の原因
<p>スポーツ庁を中心に運動部活動改革への取組が進められ、令和 8 年度からの 6 年間で「改革実行期間」と位置付け、新たなフェーズに進む中、日本で唯一の体育系の国立大学である貴学が、地域のスポーツ環境の整備に果たす役割は極めて大きいものがあり、地域の中にある大学として積極的に取組を検討していく必要があると考える。</p> <p>鹿屋市や近隣の自治体において、大学施設や教員、学生を有効活用することはもとより、鹿児島県内の自治体において、地域クラブ活動を担っていく運営団体、実施主体となり得るスポーツ団体（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、市町村体育・スポーツ協会等）の育成、体制整備を進めていくことが重要であり、鹿児島県行政、鹿児島県スポーツ協会と連携しつつ、研究・教育機能を持つ貴学において、そのノウハウを活用していくことは重要な取組であると考えている。</p>	<p>運動部活動改革に対して、体育系の国立大学としてのノウハウを、鹿屋市や近隣の自治体をはじめ鹿児島県内全域に対して、どの様に活かせるかという視点で検討することが重要であると考えている。</p> <p>また、貴学関係組織（同窓会、NIFS スポーツクラブ等）とも連携し、単なる運動部活動改革への貢献だけでなく、地域貢献・社会貢献を通して、貴学の地域における存在意義を高めることにもつながるのではないかと考えている。</p>
改善に必要な経費等 (額又は必要事項)	

2. 本学における改善に向けた対応案等 (回答)

対応 (予定) 状況	期待される効果
<p>【対応】</p> <p>①鹿屋市が部活動の地域展開の推進に向けて設置している「鹿屋市中学校部活動地域移行推進協議会」に、本学からスポーツ政策学およびスポーツクラブ運営に関する専門的知見を有する教員 2 名を派遣して地域展開の推進にかかる検討に関わってきている。</p> <p>②近隣自治体からの要請を受けて、学生スポーツボランティアの仕組みを活用して、中学校の部活動指導に学生を派遣している。</p> <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度～ 垂水市立垂水中央中学校 (バドミントン) 1 名 ・令和 6 年度 曾於市立大隅中学校 (バスケットボール) 2 名 ・令和 5 年度 鹿屋市立鹿屋東中学校 (水泳) 3 名 <p>【予定】</p> <p>国立大学唯一の体育系国立大学としての使命として、近隣地域の枠を超えた本件への貢献も重要だと考えており、近々、本件にかかる学内チームを立ち上げて、他機関等との連携を視野にいたした本学としての取組検討を行っていく予定としている。</p> <p>すでに、スポーツ庁、鹿児島県の本件担当部署との情報交換をはじめとして、予算的措置についても並行して検討していく予定である。</p>	<p>・国立唯一の体育大学としての存在意義を高めることが期待される。</p>

法人経営の改善に関する事項

【提案 2】

1. 法人経営の改善事項等 (提案)

改善点 (テーマ)	
<p>中学部活動の地域連携における「鹿屋モデル」の構築について</p>	
問題点 (改善理由)	問題の原因
<p>生涯スポーツ人口日本一を目指す鹿屋市と鹿屋体育大学の連携の一つとして、大学と学生と中学生、さらには高校生も巻き込んだプロジェクトを作り、日本全国に先駆けたモデルを作ることが求められるであろう。これが鹿屋体育大学に課された使命ともいえる。</p>	<p>学生、教授陣の研究、指導者がバラバラに活動するのではなく、それを一つにした成果として子供たちのスポーツ環境の改善が強く求められるため。</p> <p>智慧を働かせて、同時に、大隅青少年自然の家などの施設も十分に活用しながら進めていくことが求められるだろう。独自の事業よりも、連携することによって生み出される事業のパワーを信じたい。</p>
<p>改善に必要な経費等 (額又は必要事項)</p>	
<p>市からの資金バックアップを仰げないか。</p>	

2. 本学における改善に向けた対応案等 (回答)

対応 (予定) 状況	期待される効果
<p>【対応】</p> <p>①鹿屋市が部活動の地域展開の推進に向けて設置している「鹿屋市中学校部活動地域移行推進協議会」に、本学からスポーツ政策学およびスポーツクラブ運営に関する専門的知見を有する教員 2 名を派遣して地域展開の推進にかかる検討に関わってきている。</p> <p>②近隣自治体からの要請を受けて、学生スポーツボランティアの仕組みを活用して、中学校の部活動指導に学生を派遣している。</p> <p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度～ 垂水市立垂水中央中学校 (バドミントン) 1 名 ・令和 6 年度 曾於市立大隅中学校 (バスケットボール) 2 名 ・令和 5 年度 鹿屋市立鹿屋東中学校 (水泳) 3 名 <p>③今年度から志布志市教育委員会と教育・スポーツ分野における連携協定を締結し、高大接続に関する事項においても連携・協力を進める方向で調整している。</p> <p>さらに、国立大隅青少年自然の家と包括的連携協定を締結しており、毎年度、連携・協力事業にて同施設を活用している。</p> <p>【予定】</p> <p>国立大学唯一の体育系国立大学としての使命として、近隣地域の枠を超えた本件への貢献も重要だと考えており、近々、本件にかかる学内チームを立ち上げて、他機関等との連携を視野にいたした本学としての取組検討を行っていく予定としている。</p> <p>すでに、スポーツ庁、鹿児島県の本件担当部署との情報交換をはじめ、予算的措置についても並行して検討していく予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立唯一の体育大学としての存在意義を高めることが期待される。

法人経営の改善に関する事項

【提案3】

1. 法人経営の改善事項等（提案）

改善点（テーマ）	
女性職員、女性役員の割合の増加について	
問題点（改善理由）	問題の原因
<p>スポーツガバナンスコードでは中央スポーツ競技団体の女性比率は40%となっている。それにより、女子選手や女性コーチの処遇などに変化も出てきている。ハラスメントの防止が進み、ガバナンスが向上している団体も多い。鹿屋体育大学も多様性とその包摂による恩恵を是非得るべきだろう。</p> <p>また、世界的に、女性スポーツに対する研究や強化もこれまで以上に盛んになってきており、これは大切なテーマの一つであると思われる。</p>	<p>人材不足であるとの大学側の回答もあるが、人は育てていくべきものであるので、何らかの英断をしていくべきだろう。</p>
	改善に必要な経費等（額又は必要事項）
	<p>女性の登用に伴う環境整備が求められる可能性は高い。</p>

2. 本学における改善に向けた対応案等（回答）

対応（予定）状況	期待される効果
<p>【対応】</p> <p>①本学では、「男女共同参画推進のための行動計画」及び「一般事業主行動計画」に基づき、女性職員の上位職位への登用推進に取り組んでおり、令和6年4月に12.5%だった管理職に占める女性比率は、令和7年4月には25%に向上した。また、役員については、令和6年度から女性比率の25%であり、前者計画の目標（20%）を達成している。</p> <p>②今年度は、来年度スタートする新たな「一般事業主行動計画」を策定することから、女性教職員の育成プログラムの導入や、誰もが働きやすい職場環境を整備する方策について検討し、女性人材の登用推進に引き続き取り組んでいくこととしている。</p> <p>【予定】</p> <p>女性スポーツ分野の研究の推進や実践の強化を図るため、令和8年1月に女性スポーツ研究の第一人者を講師に招き、男女共同参画講演会を開催する予定であり、来年度以降も取組みを継続することとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材による意思決定が可能となり、教育・研究と経営の多様性や創造性、包摂性が向上する。 教職員や学生がジェンダーに対する理解を深めることで、無意識のバイアスの解消につながる。とともに、研究・教育や組織文化に男女共同参画・ジェンダー平等の視点が定着することが期待される。 女子選手や女性コーチが活躍できる環境づくりにつながり、競技力の向上や人材定着が期待される。 ハラスメントのない職場環境の充実につながる。 女性スポーツに関する研究・教育の充実により、教員や学生の確保が図れるとともに、学術的・教育的ニーズに応えられ、社会貢献が期待できる。

法人経営の改善に関する事項

【提案 4】

1. 法人経営の改善事項等 (提案)

改善点 (テーマ)	
卒業生ネットワークを活用した寄付促進および就職支援方策の強化について	
問題点 (改善理由)	問題の原因
<p>卒業生へのインタビューを担当していると、大学への限らない愛情を感じる。同窓会システムを現在よりもさらに強化し、卒業後 30 年を節目に鹿屋で同窓会を開き、現役学生との交流会を開くなどしてはどうだろうか。世の中の仕事に対する知識を卒業生から現役学生に伝授してもらおう形だ。</p> <p>また、企業や団体に管理職・幹部層にある卒業生を対象に、大学への寄付を募り、大学の事業のために使えるようにしていく。</p> <p>米国の大学のように、卒業生の話を学生に聴かせる機会を作るのもよいだろう。</p>	<p>同窓会は着々とながら手繰って作られているようだが、有名私立大学に比べるととても弱い。鹿屋への愛情を強く持っている人が多いだけに、それをうまく活かす方法を真剣に考えるべきだろう。</p> <p>これからは遺贈も出てくると思うので、小口から大口まで多様な寄付の受け入れについて考えていく必要がある。</p>
改善に必要な経費等 (額又は必要事項)	
同窓会を行うたびに、現役学生のためへの寄付として集めることも可能だろう。	

2. 本学における改善に向けた対応案等 (回答)

対応 (予定) 状況	期待される効果
<p>(同窓会の開催及び寄付促進について)</p> <p>【対応】 住所情報のあるすべての同窓生の自宅または実家宛てに寄附依頼文書を郵送している。</p> <p>【予定】 ①11 月 1 日にホームカミングデイを実施し、第 1 期生を中心とした OB・OG に対し、「大学支援リーフレット」の配布及び協力依頼を予定している。毎年行われている同窓会総会においても同様に、配布と依頼を予定している。</p> <p>②寄附やその他の大学支援を明記した「大学支援リーフレット」を作成中である。リーフレットは、本学関連企業などへの説明用資料としても活用する。</p> <p>③大学公式 Web サイトにて、新しい寄附方法等に関するページを準備中である。</p> <p>【新しい寄附方法等】 1) 遺贈寄附 2) 課外活動団体支援基金 3) 賛助会員制度による個人・企業からの継続寄附</p>	<p>(寄付促進について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学寄附制度の広い周知と寄附検討機会の増加が期待できる。 ・11 月 1 日に開催されるホームカミングデイにて寄附や各種支援制度についての資料を配布し、認知を促進することで、母校への愛着が深い同窓生に対し、寄附の機会が一層促進されることが期待される。 ・寄附の新しい方法等の情報を提供することで、個人に適した方法の選択が可能となる。 ・毎年各地で開催される同窓会総会で周知を行うことで、本学の周辺地域以外における寄附者数・寄附額の増加を図る。 <p>【新しい寄附方法等】 1) 遺贈制度の整備とその周知により、寄附の新たな選択肢としての認知を高め、長期的な支援基盤の強化を目指す。 2) 本学の課外活動に特化した支援制度の周知を通じて、部活動 OBOG による支援拡大を図る。 3) 定期的な寄附において、2 回目以後の手続きをなくすことで寄附者の負担を軽減し、継続寄附者</p>

<p>4) 寄附者への返礼品</p> <p>5) 寄附強化月間（11月～12月）</p> <hr/> <p>（就職支援方策の強化について）</p> <p>【予定】</p> <p>①令和6、7年度重点プロジェクト『卒業・修了生と在学生のマッチングによるキャリア形成支援』モデル事業」が採択され、「鹿屋体育大学の在学生・同窓生・教職員を対象とした公式コミュニティサイト」が令和7年11月に運用開始予定である。本サイトでは、在学生、卒業・修了生の交流の場の提供や、キャリア形成に資する情報・経験の共有の場として機能する予定である。また、卒業・修了生や在学生の個人情報を含む、名簿管理システムの一部も担う予定である。</p> <p>②公式コミュニティサイトの運用にあわせ、令和7年11月1日に開催予定のホームカミングDayにて、キャリア支援イベントの実施を進めている。卒業・修了生5名を登壇者に迎えた「トークセッション」やキャリア交流会を予定しており、在学生の進路選択やキャリア形成に資する機会を提供予定である。</p>	<p>の増加を促進する。</p> <p>4) 返礼を行うことで大学の感謝の意を可視化し、寄附者の満足度向上と継続的な寄附の促進を図る。</p> <p>5) 年末商戦期に合わせた強化月間を設定し、寄附促進の機会を最大化することで、寄附額の増加を目指す。</p> <hr/> <p>（就職支援方策の強化について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式コミュニティサイトの運用により、卒業・修了生と在学生の交流が促進され、在学生は就職に関する悩み等を実社会で活躍する先輩に直接聞くことができる環境が整備される。 ・卒業・修了生にとっても、母校との関係性を再構築し、後輩の成長に貢献できる場となる。 ・公式コミュニティサイトの活用により、大学全体としてのキャリア支援体制の強化と、ネットワークの活性化が期待される。
--	--

法人経営の改善に関する事項

【提案 5】

1. 法人経営の改善事項等 (提案)

改善点 (テーマ)	
受験生の募集も大事であるが、鹿屋体育大学で学び、社会に出るときにどのような分野で就職しているのか？鹿屋体育大学の強みなどアピールする。	
問題点 (改善理由)	問題の原因
官公庁、上場企業などで卒業生の役職などを把握し、OB・OG 訪問で連携を図る。	この大学で学び卒業すれば、就活で有利であるなど、OB・OG とのネットワークを更に充実させる。
改善に必要な経費等 (額又は必要事項)	

2. 本学における改善に向けた対応案等 (回答)

対応 (予定) 状況	期待される効果
<p>【対応】 卒業・修了生がどのような分野に就職しているか明確にするために、卒業・修了時の進路データを収集している。過去 5 年間の本学学部卒業生の就職先は、教員 19%・公務員 24%・スポーツ健康関連企業 9%・一般企業 35%・プロ、実業団 13% と幅広い。卒業・修了生の進路については、オープンキャンパス等で説明しているところである。</p> <p>【予定】 ①OB・OG との連携に関して、令和 6 年度・7 年度重点プロジェクトによる「鹿屋体育大学の在学生、卒業・修了生、教職員を対象とした公式コミュニティサイト」が令和 7 年 11 月に運用開始予定である。本サイトでは、在学生と卒業生・修了生の交流の場の提供や、キャリア形成に資する情報・経験の共有の場として機能する予定である。また、在学生や卒業・修了生の個人情報（勤務先等）を含む、名簿管理システムの一部も担い、在学生が個別に卒業・修了生と連絡を取ることが可能となる予定である。</p> <p>②今後も、保護者や高校生、地域・企業など、多様なステークホルダーに対して、鹿屋体育大学の強みを伝えていく方法や、公式コミュニティサイトを利用した、卒業・修了生と在学生との連携強化について検討を続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公式コミュニティサイトの運用により、卒業・修了生と在学生の交流が促進され、在学生は就職に関する悩み等を実社会で活躍する先輩に直接聞くことができる環境が整備される。 ・卒業・修了生にとっても、母校との関係性を再構築し、後輩の成長に貢献できる場となる。 ・公式コミュニティサイトの活用により、大学全体としてのキャリア支援体制の強化と、OB・OG ネットワークのさらなる充実や OB・OG 訪問の機会創出に寄与することが期待される。